

小さい秋、見つけ

木々の葉が色づく秋。山や街が赤や黄色に染まり、いつもの景色も色鮮やかに、足元では様々な種類の木の实を見つけて楽しむことができます。秋の植物を使ったささやかな工作をしたり、豆知識を会話に取り入れたり・・・。

どんぐり

どんぐりは栄養価が高いので縄文人の主食だったと考えられています。そのまま食べると、しびみやえぐみおの成分があるアグがあるため、水にさらしたり、加熱をしたりしてから食べていたと言われています。



どんぐりを保ったねずみと鼻です。図書館で使っているレシートの芯も

どんぐりは、リースでみぐくとピカピカになります！



どんぐりのどんとんずもう！少しずつ寒くなってくる時期、秋に合ったどんぐりを

拾ってきたどんぐりは、中から虫が出てくることがあります。虫対策に蒸すや冷凍を



紅葉(こうよう)

紅葉(こうよう)には赤くなる葉と黄色くなる葉があります。葉にはほももと緑と黄の色素があり、秋に緑色の色素が分解され、黄の色素が残った状態が黄葉(きよう)で、葉の絡みから赤の色素が生成された状態が紅葉(こうよう)です。

淡祈神社、日吉神社のイチョウ、宮地蔵神社のモミジ・・・
実はカメラアスナーズ教団内でも



松ぼっくり

松ぼっくりは松につく木の实、裸の種を守って育てる小さな家のようなものです。雄花が熟して花粉を飛ばし、受精した雌花が秋に熟して開き、種を落とします。

新宮一津屋崎の海岸に松の結核が

現在も地域の皆さんによって松林保全活動が続けられています。



参考資料



『拾って帰ろう落ち葉とソングリ』
千原隆久 著
小学館



『きせつのみとまきよみ山ゆ』
関根 誠 著
K107/4



『どんぐり 木の文のあハッピー工作広場入り』
川口 幸子 著
いっしょ社 K750/4

『どんぐりどんぐり工作2』
まるぼやしてわこ作 汐水 社 K750/7/2

『まつぼっくりノート』
いかわゆうこ作 文化学園文化出版局K633/4

暮らしの歳時記

【草露白】(くさのつゆしろし)

七十二候(せふにふたに)【白露初候(はつろく)】9月8～12日ごろ 草の葉についた露が朝日を受けて、白く光って見える季節。晴れた朝の白が曇り、朝晩と日中の寒暖差が大きくなってくると見られる現象が、「草露白」という美しい言葉で表現されています。空気の水蒸気が冷やされて氷溜りになった白く輝く露。いつもより少し早起きをして、草花をながめてみましょう。自然の力強さが実感できます。

私の心に響いた言葉

『がんばらなくていいの。ほんとうに伝えたいことは、言葉でなく思いで伝わりますから』

スタッフおすすめの本



『ふくであたらしい仕事』
藤原 淳一郎 著

「本はただ紙に、情報や紙に印刷して、それを手にしたものではありません。それよりも、もっと美しいものだし、もっとあこがれるようなものだ。」作中の、又ここはこの文章に共感し、ますます本が好きになる言葉の数々に、胸がいつぱいになります。読書に、だからのちを思いつくられた本は、こんなに温かいんだと涙ぐみながら読んでいます。日々忙しむきに、本づくりの仕事に向かい生きている著者の、やさしくも熱意溢れる文章はきっと心を打つはずですよ。

スタッフよもやま話

我が子達が小さい頃は、秋になると、どんぐりや松ぼっくりと一緒に拾いに出かけたり、幼稚園からそれらを帰った工作を持ち帰ったりと、秋を実感し、楽しむ機会がたくさんありました。子ども達が大きくなり、そういったイベントごとをあまり意識しなくなると、あつという間に季節が移りかかってしまうなと感じる今日この頃です。忙しい日々の中でも、身近にあるものに興味関心を向けて、楽しんで愛し愛し愛し愛しすること、いつか心のどこかにとどめておきたいと考えながら今回の図書館によりを作成しました。